

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：13101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17384

研究課題名(和文)戦後復興期の衛生教育に関する実証的研究

研究課題名(英文)Empirical Study on Health Education in Postwar Reconstruction Japan

研究代表者

田中 誠二(TANAKA, Seiji)

新潟大学・人文社会科学系・准教授

研究者番号：60561553

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、戦後復興期のわが国において精力的に推進された「衛生教育」に着目し、その政策的展開と受容過程を明らかにすることを目的とした。分析には、国立国会図書館憲政資料室に所蔵されているGHQ/SCAP(連合国最高司令官総司令部)文書などの資料を用いた。その結果、占領期における衛生教育に関する議論のプロセス、衛生教育活動の具体的な展開(「公衆衛生列車展覧会」、NHKラジオ「皆さんの健康」など)、占領期間後の保健活動への継承について明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦後占領期は現在にも続く日本の保健医療の制度や枠組みが形成された重要な時期である。近年、国内外の研究者によってこの時期の保健医療史研究が進められているが依然として不明な点も多い。本研究はGHQ/SCAPによる占領政策を契機に進化した「衛生教育」について、GHQ/SCAPの活動記録(一次資料)を分析することにより議論・立案のプロセスを詳細に検討した。当時、展開された特徴的な衛生教育活動の掘り起こしを進めることができた点も重要と考える。

研究成果の概要(英文):This study focused on the vigorously promoted health education in postwar reconstruction period Japan and clarified its policy development and acceptance process. The analysis was mainly based on the GHQ/SCAP (the General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers) documents in the National Diet Library. The study revealed the discussion process on health education and specific contents of health education activities ("Public Health Train Exhibit," NHK radio program "Your Health," etc.) in occupied Japan and the effects of these activities on community health activities after the occupation ended.

研究分野：公衆衛生学，医史学

キーワード：戦後復興期 占領期 衛生教育 GHQ/SCAP文書 PHW 厚生省

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

戦後 70 年、わが国の健康水準は飛躍的に改善・向上した。その背後には、医療技術の進歩や保健・医療サービスの充実が大きく貢献しているが、一方で、人びとにおける「保健・衛生知識の普及」や「日常生活に根ざした多様な健康実践」がその礎となっていることもまた確かである。戦後日本の出発点にあたる占領期に「衛生教育」の基盤がどのように形成されたのか、また、衛生教育による人びとの学びと実践がいかに蓄積され、占領期間後の保健活動に継承されていったのか。本研究はこうした問題意識から計画されたものである。

占領期の保健医療史研究は、近年、国内外の研究者によって本格的に進められるようになり、まさに途上の段階にある。しかしながら、本研究で対象とする「衛生教育」は歴史的事実の掘り起こしやその検証が積極的になされてこなかった領域である。衛生教育が、いわば「教育」と「保健・衛生」の合流する領域にあり、双方にまたがった史資料調査の難しさがその要因の 1 つと考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、戦後復興期(1945~1954年)のわが国において精力的に推進された「衛生教育」に着目し、その政策的展開と受容過程を実証的に明らかにすることである。

わが国に進駐した GHQ/SCAP (連合国最高司令官総司令部) による占領政策を契機として、この時期「衛生教育」が重視され、公衆衛生活動の各方面において量的・質的に発展したとされている。例えば、「結核予防婦人会」による家庭婦人を対象とした結核教育・広報活動などである。しかし、既存の報告の多くは厚生省の通史や活動経験者による体験証言など“振り返り”によって記述された資料を扱ったものが多く、そのため実際の経過を省き結果のみを描く傾向があった。本研究は(こうした国内資料のみならず)当時の保健医療政策に大きな影響を及ぼした GHQ/SCAP の活動記録を分析することによって、戦後占領期に衛生教育の基盤がどのように形成されたのか、そのプロセスに着目し具体的に描写することを目指した。また、衛生教育による人びとの学びと実践がいかに蓄積され、占領期間後の保健活動へと受け継がれていったのか考察することを課題とした。

(注) 現在は「健康教育」という用語の使用が一般的である。しかし、本研究で対象とした戦後復興期においては「衛生教育」が広く使用され、「健康教育」という用語は“学校現場”におけるそれを指すことばとして使われた(宮坂, 1958)。本研究ではこうした時代背景を考慮し、また(学校内に限定せずに)“公衆”を対象とした教育を扱うため「衛生教育」を使用することとした。

3. 研究の方法

占領期の日本では、GHQ/SCAP の指示や示唆のもと、日本政府の担当官庁がその行政機関網を通じて政策を実施する「間接占領方式」が採用された(沖縄を除く)。

保健医療政策では [公衆衛生福祉局] (Public Health and Welfare Section; 以下 PHW), 教育政策では [民間情報教育局] (Civil Information and Education Section; 以下 CIE) が占領軍側の担当部署であり、日本政府側はそれぞれ [厚生省], [文部省] であった(右図)。前述のように、この研究で着目する衛生教育は「保健・衛生」と「教育」の双方にまたがる領域であり、保健的側面として [PHW] [厚生省], 教育的側面として [CIE] [文部省] のそれぞれを視野に収めた検討が必要となる。こうした点を踏まえ、以下の計画・方法により研究を進めた。

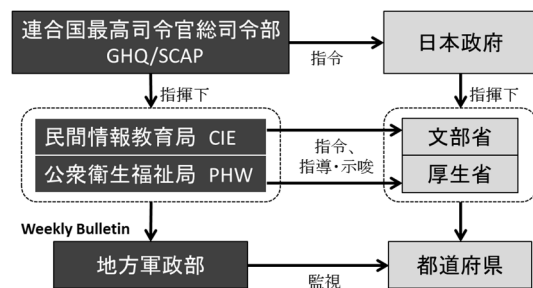


図 間接占領方式(本研究で対象とした保健、教育分野)

(1) 占領期における「衛生教育」に関する議論・立案プロセスの解明

国立国会図書館憲政資料室に所蔵されている GHQ/SCAP 文書のうち PHW と CIE の記録文書を中心に関連記述を探索・収集し分析した。杉田により復刻・電子ファイル化されている「Weekly Bulletin」(PHW 文書)など既存のリソースを有効活用することにより効率的・効果的な研究を目指した。

(2) 戦後復興期における衛生教育活動の掘り起こし

この時期の重要な健康課題(感染症対策、栄養改善など)を対象に、実際にどのような衛生教育活動が展開されたのか、具体的な方法や手段に着目しながら整理し検討を行った。

(3) 衛生教育の展開が人びとにいかを受容され、その後の保健活動に継承されたか

都道府県・市町村・民間機関の資料を中心に探索・収集を行い、衛生教育による人びとの学びと実践が日常生活に根付いていく過程を事例的に考察した。

当初は上記(1)を初年度に、(2)を第2・3年度に、(3)を最終年度に実施する計画をおおよそ立て

ていたが、実際には年次をまたいで同時並行で検討を進めるなど進捗に前後が生じた。

4. 研究成果

主な研究成果を以下に記す。

(1) 占領期における「衛生教育」に関する議論・活動内容の推移

国立国会図書館憲政資料室に所蔵される GHQ/SCAP 文書の調査により得られた PHW の記録文書のうち、「Public Health Education」というフォルダタイトルが付された下記の史料群を分析した。この史料群は、占領期のほぼ全期間にわたる衛生教育の活動内容を縦断的に検証することのできる重要な記録と考えられる。

- ・ Public Health Education, #1 (1946-48) [PHW 01333-01336]
- ・ Public Health Education, #2 (1949) [PHW 01336-01339]
- ・ Public Health Education, #3 (1950) [PHW 01339-01345]
- ・ Public Health Education, #4 (1951) [PHW 01345-01348]

上記 #1～4 に収録されている文書の表題を抽出・リスト化し、衛生教育に関する議論や活動内容がどのように推移したのか、その全体像を時系列に把握した。

- ・ 作成したリストから、Public Health Train (Exhibit) (公衆衛生列車展覧会) / Educational Movie (教育映画) / Health Booklet (健康ブックレット) / Insect Borne Disease (昆虫媒介感染症) / Radio Program (ラジオ番組) / Public Health Education Research (公衆衛生教育調査) / Information Unit (厚生省内の新組織) / School Health Program (学校保健プログラム) のキーワードが抽出された。
- ・ 1946～47年に作成された文書のほとんどが、Public Health Train Exhibit (公衆衛生列車展覧会) に関する会議や報告の記録であった。これは健康に関する模型や図などを列車内に陳列し、全国各地を巡回展示した衛生教育の試みである。1947年11月から約1年間にわたって実施された。予算上の問題から、結果的に当初の予定を大きく縮小して終了することとなった活動だが、占領初期における議論の中心的な課題であり、またその後の衛生教育活動の「起点」ともなった取り組みであることから、とくに重要な位置づけにあることが読み取れた。
- ・ 1948年に入ると Radio Program “Your Health” に関する文書が確認されるようになる。これは NHK ラジオにおける健康番組「皆さんの健康」の再編に関する会議の記録であった。
- ・ 1948年末を境に、文書の多くが厚生省内に新たに設立された Information Unit と呼ばれる組織から PHW に提出された活動報告書によって構成されるようになる。この時期の衛生教育に関する活動主体の実質的な移行が推測された。

(2) 厚生省内における Information Unit (弘報係) の組織化

占領期における衛生教育の展開において重要な役割を担った厚生省内の組織 Information Unit に着目し、その設立過程を占領軍側と日本側(厚生省)のやりとりに着目して検討した。

この組織は、厚生省の政策・活動の広報や報道機関・出版・映画・視覚教材などを通じた情報プログラムの促進などを目的として1948年春に設立された。設立の背景には GHQ/SCAP による働きかけがあったが、厚生省内の一部では強い反発があり GHQ 当局を訪れ設立計画の中止を申し入れるなどトラブルがあったことも確認された。「占領した側(GHQ/SCAP)が一方向的に政策を押し付け、それを占領された側(日本)が無条件に受け入れる」という単純な見方では読み取れない、「対立」や「協同」などのダイナミックなやりとりが存在したことを示す一例である。

この時期の衛生教育に関する議論や取り組みを詳細に見ていくと、当時、厚生省技官であった石垣純二(1912-1976)や宮坂忠夫(1922-2013)らの存在が浮かび上がる。石垣はのちに医事評論家として、宮坂は研究者としてともにわが国の健康教育分野を牽引していくこととなる人物である。占領期において衛生教育の基盤形成に深く関わった彼らの経験や知識の蓄積が、その後のわが国における健康教育の発展を支える基礎となったことを想像させる。

(3) 衛生教育活動の具体的展開(公衆衛生列車展覧会, NHK ラジオ「皆さんの健康」)

「公衆衛生列車展覧会」(1947年11月～)

前述の通り、公衆衛生列車展覧会(Public Health Train Exhibit)は衛生知識の普及・啓蒙を目的として、列車内に公衆衛生・福祉に関する模型や写真、ポスター、図などを陳列し、全国の主要都市を巡回展示した列車である。厚生省主催として実施されたが、計画段階から占領軍(とくに PHW と CIE) がこれに深く関与しており、全体として「協調的に」計画・実施された。経費不足のため当初の予定を大きく短縮し結果的に約1年間で運行を終えることになったが、その際には、占領軍側が主導的に継続案(“Information Train”案)を提示するなどの動きもあった。(なお、この活動については概ね調査を終えており、現在論文の執筆を進めている。)

NHK ラジオ番組「皆さんの健康」の再編

「皆さんの健康」(1947年7月～)は、NHK ラジオで平日、毎日放送された15分間の健康番組である。終戦後、主として結核患者向けに放送されていた番組「療養の時間」、「療養の友」を改正し、病気の予防を中心とする一般向けの内容にあらため開始された。多くのリスナーを獲得する人気番組であったが、占領軍はその再編を指示し、番組で扱う内容や形式について介入する

など番組放送に一定の影響をもったことが読み取れた。再編にあたっては「公衆衛生の基本原則」、「感染症（特に結核・性感染症・季節性疾患）」、「母子保健」、「環境衛生」の4つを基本テーマとする新プログラムが検討され、1948年4月開始に向けて準備が進められた。

(4) 占領期間後の保健活動への展開（「衛生教育」の重視と継承）

終戦直後の日本ではさまざまな急性感染症が流行したが、占領軍による徹底した防疫対策が進められ多くが制圧された。しかし、消化器系感染症である「赤痢」は占領中期以降、再び増加に転じ、1952年には昭和期で最も多くの患者数（約11万2千人）を記録するに至った。占領終結後、赤痢は日本人びとの手によって克服されていくことになるが、なかでも特に重要な役割を果たしたとされる公衆衛生活動に「蚊とはえのいない生活実践運動」がある。本研究では、占領後期から農村部を中心に広がり、その後、国民運動へと発展したこの活動に着目し「衛生教育」がどのように位置づけられたのか当時の史資料をもとに検討した。

蚊とはえのいない生活実践運動は、例えば「蚊の生活史」や「殺虫剤の正しい使い方」など、衛生害虫駆除に必要な知識を広める衛生教育の「機会」として限定的に捉えられたわけではなく、むしろ、人びとが組織的な活動に取り組むなかで相互に援助し、教え合い、そうした実践を通じて生活全般にわたる合理的な物の考え方を身に付けていくための「手段」と考えられた。これは、「衛生知識の普及」に重点を置いた占領期の衛生教育施策（例えば、前述の「公衆衛生列車展覧会」、NHK ラジオ「皆さんの健康」など）とは明らかに性格の異なるもので、いわば“実践を通じた学び”重視への転換があったとも考えられた。

この運動に衛生教育の視点が組み込まれ強調された背景には、石垣純二や宮坂忠夫の上司として PHW と直接交渉にあたり、占領期における衛生教育の基盤形成に深く関わった楠本正康（1903-1993）の存在がある。占領期からポスト占領期へ、衛生教育が受け継がれた背景についてさらなる調査・分析が必要となる。今後の課題とする。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Shigemasa Ikeda, Satoru Sugita, Seiji Tanaka	4. 巻 62
2. 論文標題 Japanese Medical Education Reforms during the Allied Forces Occupancy; Roles Played by the Public Health and Welfare Section of the Supreme Commander for the Allied Powers	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 273-284
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田中誠二, 杉田聡, 丸井英二
2. 発表標題 戦後占領期における「公衆衛生列車展覧会」に関する考察 県軍政部はレポートに何を記したか？
3. 学会等名 第120回日本医史学会総会・学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中誠二, 杉田聡, 丸井英二
2. 発表標題 戦後の地区衛生組織活動に関する検討 「蚊とはえのいない生活実践運動」と衛生教育
3. 学会等名 第84回日本健康学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中誠二, 杉田聡, 丸井英二
2. 発表標題 戦後日本の衛生教育に関する研究 楠本正康『衛生教育概論』の検討
3. 学会等名 第121回日本医史学会総会・学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中誠二, 杉田聡, 丸井英二
2. 発表標題 占領期の衛生教育に関する研究 "Information Unit"の組織化について
3. 学会等名 第118回日本医史学会総会・学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中誠二, 杉田聡, 丸井英二
2. 発表標題 戦後復興期の衛生教育に関する研究 ラジオ番組「皆さんの健康」を中心に
3. 学会等名 第82回日本健康学会（旧称；日本民族衛生学会）総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中誠二, 杉田聡, 丸井英二
2. 発表標題 占領期日本の衛生教育に関する研究 Charles M. Wheelerによるレポートの検討
3. 学会等名 第119回日本医史学会総会・学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中誠二, 杉田聡, 丸井英二
2. 発表標題 占領期の「公衆衛生列車展覧会」に関する考察 "Information Train"案について
3. 学会等名 第117回日本医史学会総会・学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田中誠二, 杉田聡, 丸井英二
2. 発表標題 占領期の衛生教育に関する考察 GHQ/SCAP文書による時系列把握
3. 学会等名 第81回日本民族衛生学会総会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 丸井英二, 朝倉隆司, 安藤寿康, 逢見憲一, 緒方裕光, 河野可奈子, 北島勉, 金城芳秀, 杉田聡, 助友裕子, 瀧澤利行, 田中誠二, 友川幸, 中澤港, 峰松和夫, 山内太郎, 渡辺知保	4. 発行年 2020年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 188
3. 書名 わかる公衆衛生学・たのしい公衆衛生学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----